

## Web教育実習ノートの改善と運用

著者	加藤 隆弘, 松能 誠仁
雑誌名	日本教育工学会 2008年 第24回大会講演論文集
巻	24
ページ	245-246
発行年	2008-10-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/11938">http://hdl.handle.net/2297/11938</a>

# Web 教育実習ノートの改善と運用

Improvement and operation of Precervice Teacher Training Note System on Web

加藤 隆弘                      松能 誠仁  
Takahiro KATO                Nobuhito MATSUNO

金沢大学人間社会学域学校教育学類  
School of Teacher Education, College of Human and Social Science, Kanazawa University

〈あらまし〉 金沢大学教育学部では、平成 18 年度から 19 年度にかけて「Web 教育実習ノート」を開発し、附属高等学校での教育実習にて試行した。今年度は 19 年度の取り組みをふまえて機能面・運用面の改善すべき点の洗い出しを行い、9 月実習で運用することとなった。今年度（平成 20 年度 9 月実習）の運用状況と合わせ、これまでの取り組みの概要を報告する。

〈キーワード〉 教育実習 システム開発 コミュニケーション ポートフォリオ 大学教育

## 1. はじめに

金沢大学では平成 18 年度から 19 年度にかけて「資質の高い教員養成推進プログラム（以下、教員養成 GP）」の指定を受け、教育学部、及び附属高等学校が中心となり「WEB 教育実習ノートによる自主学習の支援 ー’なるため実習ノート’を活用した高等学校教員養成における訪問対話型教育実習指導・評価システムの構築ー」をテーマに、システム開発を行った。（加藤ら 2007）また、19 年度 9 月には、99 名の実習生、附属高校教員、大学教員がこのシステムを活用し、4 週間の教育実習、及び実習指導に取り組んだ。（加藤ら 2008）

ここでは、Web 教育実習ノートの概要について説明し、昨年度の取り組みから明らかになった Web システム導入の利点と改善すべき点をふまえ、今年度取り組みのコンセプトについて概括する。また、報告の際には 9 月実習の実際についても具体的に紹介する。

## 2. Web 教育実習ノートの概要

金沢大学では旧教育学部が中心となって、教師としての実践力と可能性を十分に培うことを目指して教員養成カリキュラムの改善に取り組んできた。特に附属学校園と連携して行う教育実習については、実践力向上の最大の機会ととらえ、実習生に対して、実習校教員、大学教員が連携してこれまで以上に丁寧な指導を行い、また学生自身も自学実践できる環境整備に取り組んできた。

具体的には平成 14 年度から、「教育実習リングファイル」を導入し、教育実習の事前から事後に

掛けてのポートフォリオの蓄積、訪問対話型指導・評価（大学教員による週に一度以上の実習参観指導、実習生・実習校教員・大学教員の三者による指導評価会の実施など）に取り組んできた。

これらの取り組みにより、実習指導の充実と定着を計ってきたが、一方で実習期間中の日程調整、指導時間の確保、自主学習素材・機会の不足、学部ごとに異なる実習指導体制をどう整理するかなど、いくつか課題も明らかになってきた。

これら諸課題について、限定的ではあるが解決を目指して開発・運用を試みたのが今回の「Web 教育実習ノート」である。

Web 教育実習ノートでは、主に以下の 3 課題の解決を目指してシステムの構築を行った。

課題 1：実習に関わる三者（実習生、実習校指導教員、大学教員）間においてスムーズに情報が共有できるシステムの構築

課題 2：教科内容に関する自主学習支援

課題 3：教育実習システムの統一・標準化

19 年度版 Web 教育実習ノートでは、図 1 のよ

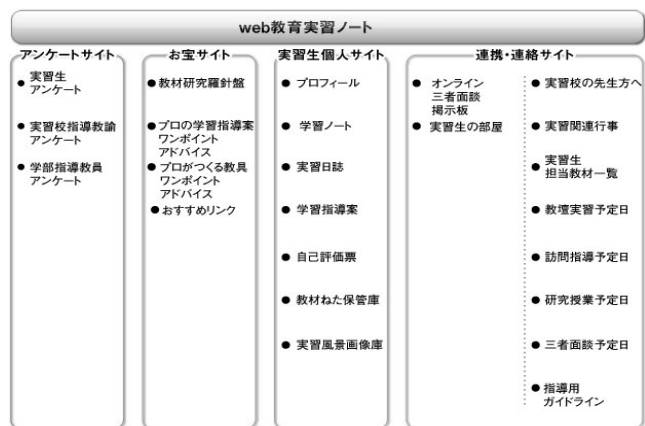


図 1 19 年度版「Web 教育実習ノート」サイト構成

うに、大きく4つのサイトに分けて構築した。

まず「連絡連携サイト」では、実習予定や訪問指導日時の連絡、三者間の連絡機能の充実、「実習生個人サイト」は実習日誌や指導案の蓄積や指導、「お宝サイト」では自学自習用の各教科授業実践映像や手本となる指導案の例示、「アンケートサイト」では、この取り組みに関するアンケートを、それぞれ企画し、構築・運用を行った。(詳細については日本教育工学会研究会 JSET07-05、及び JSET08-03 を参照されたい。)

### 3. 19年度取組の成果と課題

19年度9月実習において試行してみたところ、様々な成果と課題が浮かび上がった。その代表的なものは以下の通りである。

成果：

#### 【実習生】

- ・(手書きではないために) 実習日誌・指導案などを十分に校正しながら、丁寧に書き込むことができた。
- ・指導教諭からのコメントがすぐに参照できた。
- ・様々な先生方の実際の授業を見ることができた。(お宝サイト内 VTR について)
- ・実習予定日時、三者面談日時の連絡をスムーズに行うことができた。

#### 【実習校(附属高校)指導教員】

- ・時間・場所の制約を受けずに、実習日誌へのコメント記入、指導案の指導ができた。
- ・日誌の欄で意見の交換ができた。実習生が何を学んだかがよく読み取れた。
- ・日誌への書き込みにキーボードを使えるので楽になった。
- ・冊子や関係書類を一々広げたり、集めたりしなくてもその場で全員の資料をチェックでき、実習の状況を把握できた。
- ・大学教員と連絡が取りやすくなった。

#### 【大学教員】

- ・学生の悪戦苦闘の日々と成長の過程が解った。
- ・日々の学生の様子、それに対する高校教員のコメントが把握できた。
- ・高校の先生の苦労が実感できた。
- ・実習生個人に連絡を取って確認しなくても、Web上から予定や動きが確認できた。

以上のように、Web・PCの特性を活かした成果が特に「オンライン三者面談」「実習日誌」「指導案」といった、「日常的に使用せざるを得ない」

機能の部分に集中してみられた。このことを裏返してみるならば、この3機能以外の機能はさほど十分に活用されなかったと言うことであり、実際にアクセスログの分析などからもこのことは裏付けられている。我々が設計、構築する際には、それぞれの立場から「あれがあれば便利かもしれない」「これも盛り込んでおこう」と様々な機能を付加させていったが、結果として非常に多機能な、しかし複雑で難解なシステムとなってしまった。そのため、目的の機能にたどり着くのに「慣れ」が必要な、インターフェイスとしては不十分なものとなってしまった。

### 4. 20年度実施に向けた改善

そこで、今年度は以下の項目に絞り、インターフェイスの改善、使い勝手の向上に取り組んでいる。

TOP画面	・ログイン後の画面における、更新情報の一覧性の向上
実習生	・実習日誌に関わる入力、一覧性の向上
学習指導案	・指導案の入力、及びアップロードの手順の単純化、明快化
実習日誌	実際には、19年度版で構築した機能は維持するものの、もっとも目にするログイン後のトップ画面では、日常的に使う項目のみが表に出るよう、項目の階層の組み替えを行った。
提出物	
レポート	
評価票	
ポートフォリオ	
実習記録	
時間割	
保管庫	
担当実習生	
連携連絡	
三者連絡掲示板	
実習生の掲示板	
+ 実習運営委員会からのお知らせ	
+ スケジュール	
お宝サイト	
おすすめリンク集	

図2 今年度サイト構成

#### 参考文献

- 加藤隆弘, 松能誠仁, 中川一史, 井原良訓, 鷺山靖(2007), Web教育実習ノートの開発, 日本教育工学会研究会研究報告集, JSET07-05, pp.89-94
- 加藤隆弘, 中川一史, 松能誠仁, 井原良訓, 鷺山靖, 川崎繁次, 川谷内哲二(2008), Web教育実習ノートシステムの運用・評価, 日本教育工学会研究会研究報告集, JSET08-03, pp.95-102